



新たな出発を迎えて

垣内 弘章*

私は現在大阪大学工学部精密工学教室で助手をさせていただいています。私がこの職業についていることは、今改めて考えてみると非常に不思議に思えます。そもそも私の父親が銀行員であるので、子供のころから“学者”や“博士”というものに対してかなり偏見をもっていました。どのような偏見かというと、例えば、頭がずば抜けて良いけれども人付き合いが下手、一般の人には全く理解できないような難しいことしか言わない、等です。だから、大学へ入る前に私が考えていたことといえば、自分はあまり頭が良くないのだから、とにかくどこかの大企業に就職して、無難に人生を終えることができたなら、という消極的なものでした。そのために少しでもいい大学（入試の難しい国立大学）に入学さえすればそれですむと勘違いしていました。私は小さいころから父親の仕事の関係上転校が多かったので、風習などが全く違う土地に移り住んでも、物事をあるがままにうけいれることに関しては、全く抵抗がありませんでした。これは良く言えばどんなことに対しても柔軟に対応できるということかもしれませんが、その反面、物事の根源についてあまり深く考えないという癖がついていたともいえると思います。とにかく私は、大学に入学してしかも研究室に入るまでは、単に知識を頭に詰込むだけで、本当の意味の勉強はしていませんでした。しかし、研究室に配属されてから私の人生が大きく変化

しました。恩師であり現在の師匠でもある森勇藏先生と出会ってから、自分自身の人生観が全く変わってしまいました。森先生の教え通りには自分自身まだ成長できていないものの、それまでの私の“学者”に対する偏見はすべて消え去ってしまい、現在では、一般企業に就職しなくて本当に良かったと思っている次第です。

少々前置が長くなってしまいましたが、実は今年（平成5年）の4月に私は結婚する予定です。森先生に紹介していただいた縁で、自分では何の努力もしないうちに周囲で話がまとまっていき、すべての事がとんとん拍子に進んできました。考えてみれば、これまでの私の人生は節目節目で非常に幸運に恵まれていました。高校入試、大学入試、研究室への配属、就職、結婚等々すべてそうです。そこで、この結婚を機会に、これまでの私の人生をふりかえって、小学生時代から現在までに自分の意識がどのように変わってきたかについて少し書いてみようと思います。

小学生時代

転校が多かった（金沢（石川県）、尼崎（兵庫県）、富山（富山県）の3県の小学校に通った。）ことも原因かもしれませんが、小学生時代には将来的な目標が全くありませんでした。そのせいか成績は常に悪く、家に帰ると毎日のように親父に説教されました。しかし、負けん気だけは強く、高学年になって習い始めたそろばんや卓球などに関しては、自分の納得がいくまで練習したのを覚えています。親父に説教してもらっていたおかげで、自分なりの考え方が無意識のうち身に付いていたと思います。ただ、人前で自分の意見を述べることは非常に苦手で、人前にでると必ずあがってしまいました。人前で

*Hiroaki Kakiuchi

1967年3月17日生

平成3年大阪大学大学院工学研究科精密工学専攻前期課程修了

現在、大阪大学工学部精密工学科第一講座 川辺研究室、(文部教官)

助手、工学修士、機能性材料学

TEL 06-877-5111(内線4603)



堂々と自分の意見を述べたり、学校のクラス会で司会をする友達を見ながら、劣等感を感じていた時代でもありました。

中学生時代

勉強ではあまり人に自慢できることはありませんでしたが、英語だけは別で、絶対に他人には負けない自信がありました。将来は英語を生かした仕事をしたいと思っていました。中学3年になって何故か急に全科目の成績が良くなり、自分でも不思議なほどテストで点が取れるようになりました。ちょうどこの頃富山県から福井県へ引っ越して、自分の将来のこと（高校、大学への進学）を真剣に考え始めたから、自然に勉強するようになったのだらうと思います。しかし、常に上の学校を目指すための勉強をしていただけで、自分の生き方について考えたことは一度もありませんでした。

高校生時代

運よく父親の転勤の恩恵を被って福井に移れたので、全国的に有名な福井県立藤島高校に入学することができました。自分でも不思議に思っていますが、高校一年生の頃から常に大阪大学の精密工学科を第一志望にしていました。精密工学科で実際に行われている研究内容などはほとんど知りませんでしたが、とにかく他人とは違うことをしたいという意識が強かったように思います。精密工学科は当時の大阪大学のなかでもあまり人気がなく入試が比較的楽（偏差値が割と低かった。）だったので、模擬試験などでは常にトップの成績をとることができました。負けん気の強い私としては、このような成績に非常に満足していたものです。いま考えると、何とも幼稚な考え方で恥かしいかぎりです。

大学に入ってから

大学入学後は、それまでの受験勉強から開放されて、遊ぶことが多くなりました。講義を聞いても面白くなかったので、全く勉強をせずに3年間過ごしてしまいました。英会話もすこし勉強しましたが、高校まで絶対的な自信をもっていった英語も、大学に入ってから自慢できま

せんでした。とにかく3年間はなにも考えずに、ただただ単位を取ることに熱中していたのです。かといって勉強に励んでいたわけでもありませんでした。はずかしいことですが、このままのうのと生きていって、将来自分がどういう人間になるのかなどということは考えもしませんでした。

しかし、研究室に配属されてから、自分の生き方が急激に変化しました。なにもかもが新鮮で、研究しようという気持ちが沸いてきたのです。ひとえに森先生との出会いのお陰です。学部を卒業するころには、自分の人生に対する考え方はかなり異なったものになっていました。このまま就職してしまえば、社会に出て一人で生きていけないと実感し、とにかく一人前になるために研究に打ち込もうと考えたのもこの頃です。両親の勧めもあって大学院へ進学し、自分なりに一生懸命勉強しているうちに、大学に残らないかとの誘いをいただきました。私としては非常に嬉しいことであり（当初はつまらない理由で辞退することを真剣に考えましたが）、有難くお引き受けすることにしました。

就職するまでの私の歴史を簡単にふりかえると以上のような内容になります。結果だけを見るとなにもかもが順調であったように見えますが、実際には自分なりにかなり悩んだ時期もあります。なかでも大学に残るように誘われた時期は、両親がかなり心配していたこともあって真剣に悩みました。しかし、中学時代以来、常に具体的な目標（どんな小さなものであっても）をもって努力してきたおかげで、今日の自分があります。ただ、これまでの人生の節目節目で、自分という人間は本当に運が強かったと思いません。なにか運命的なものささ感じます。

以上長々と自分の過去について書いてしまいましたが、最後に今後の抱負も含めて、現在私が考えていることについて書こうと思います。

私が主に取り組んでいる研究は、CVD法による半導体薄膜の高速かつ低温での成膜法に関するものです。現在世の中には存在しない新しい技術であるので、将来実現すれば世の中の半

導体薄膜の作成方法に革命をもたらす程のスケールの大きな仕事になると思っています。この研究は私が森先生の研究室に配属された年に与えられたテーマで、私はこの研究とともに歩んできました。それだけにこの研究に対する私の思い入れには相当なものがあります。しかし、スケールが大きくしかもオリジナリティのある研究である分だけ難しい仕事であるのも事実で、現在精密工学科内の三つの研究室が力を合せて共同研究を行っています。この研究の他にも複数の研究室にまたがった研究は精密工学科内にいくつかありますが、すべて世の中を変えるような大きな仕事ばかりです。将来的には精密工学科内の専門分野の異なる七つの研究室が一致団結して、一つのコンセプトのもとに、世の中のためになるような革命的な仕事に取り組めるようになれば、すばらしい研究ができると思っています。

現在工学部では大学院改革の一環として組織の再編成を進めていますが、我が精密工学科はどの系にも属さず一学科だけで生きていこうとしています。これは、精密工学科の教授の先生方が一致団結して我々後輩のためにして下さっていることで、私にとって非常に心強いと同時に身の引き締まる思いです。一人で生きていくということは想像以上に大変なことであるのはわかっているつもり（実際にはまだあまり体験していませんが）ですが、やはり世の中を変えるくらいのスケールの大きな仕事をするためには、周囲の雑音を気にしては駄目です。しかし同時に大学の一研究室だけでこなすには無理があるので、複数の研究室にまたがった共同

研究という形が理想的です。

このような考え方はほとんどすべて森先生が事ある毎に話されることです。現在の私のレベルから見れば言うことが大きすぎますが、自分自身に気合いをいれるために書かせていただきました。私もこれまで周りの人のいうことにかなり左右されながら生きてきましたが、研究室に入って自分なりに本気で研究に取り組むようになってから、周りの雑音のことなど全く気にせず自分なりの意見を言えるようになってきました。森先生を初めとして精密工学科の先生方にご指導をいただきながら研究を進めてきましたが、研究に限らずどのようなことに取り組むにしても最も大切なのは、いかに物理に忠実に思考することができるかということです。これも森先生から常々言い聞かされている教えですが、研究室に入って以来5年経ってようやく実感できるようになってきました。結婚後もこれまでと同様常に具体的な目標を掲げて励んでいきたいと思えます。当面の目標は、現在行っている研究を一日も早く大成させることです。そのためには如何なる労も厭わない所存です。

就職と結婚は人生を左右する節目であるといわれますが、この二つとも私の場合は何の苦勞もなく最良の結果を手にいれることができました。これが単なる運ではなかったと認めてもらえるように、今後とも頑張っていきたいと思えます。最後に、本欄への執筆の機会を与えて頂きました工学部精密工学科教授梅野正隆先生に深謝致します。

